

平和・観光グループ

平和・観光グループの質問を始めます。

私たちのグループは、戦争の悲惨さを伝え平和を実現する取組、さらに観光について話し合いました。

このことについて、2つの質問をしたいと思います。

質問1 「戦争の悲惨さを伝え、平和を実現する取組」について

1つ目の質問は、「戦争の悲惨さを伝え、平和を実現する取組」についてです。

日本は、世界で唯一、戦争で原子爆弾を落とされた国です。広島では、昭和20年12月末までに、約14万人が亡くなったと推計され、その後も、多くの人々が亡くなっています。

私たちは、学校の授業や、本を読んで、戦争や原爆の悲惨さを知りました。

今でも、世界では、戦争や争いが起こっていて、亡くなる人や、悲しんでいる人、不安な生活を送っている人たちが、たくさんいると思います。

そこで提案です。こうした世界中の人たちが幸せに暮らせるように、そして、二度と戦争をしないように、日本中や世界中の人たち、中でも、自分たちと同じような若い人たちに、広島が経験した戦争や原爆の悲惨さ伝えることに取り組んではどうでしょうか。

例えば、広島と日本中、世界中の若い人たちが、オンラインでつながって話すなど、対話を促す仕組みがあれば、広島から戦争や原爆の被害を直接伝えることができ、話をした人たちの記憶に残ると思います。

また、来年は、広島サミットが開催されるので、この機会にも、しっかりと、広島が経験したこと、平和の大切さについて、発信できればいいと思います。

2つ目の提案は、「平和を実現する取組」についてです。

今、私の学校では、100万羽のおりづるを「ひとつの大きなレイ」につなげ、その長さのギネス世界記録に挑戦するとともに、おりづるをノートにリサイクルして、世界の貧困の地域に届けるプロジェクトに参加しています。こうした取組のほかにも、生活に必要な物や食料を届けたり、募金活動などが行われれば、世界中の人々に支援と平和の願いが届くのではないかと思います。

そこで提案です。貧困などで困っている世界の人や地域を支援するなど、平和を実現するための取組を行ってはどうか。

広島は、戦争や原爆の悲惨さを経験した県なので、世界中の人が戦争や貧困で苦しまず、幸せに暮らせるように取り組んでいく広島県だったらいいなと思っています。

答弁（知事）

日本や世界中の人たちに、広島が経験した被爆の実態を伝え、核兵器による破壊の悲惨さを理解していただくことは、非常に重要であり、特に、将来を担う若い人には、国際平和について、しっかりと学び、一人一人が自分事として、何ができるか考えていただきたいと思います。

このため、広島県では、「国際平和拠点ひろしま」のウェブサイト上で、核兵器廃絶などについて学ぶオンライン平和講座の開設や、被爆者証言などの情報を発信しているほか、国内外の高校生が、オンラインでの討議や交流等を通じて平和のメッセージを発信する「ひろしまジュニア国際フォーラム」や、県内外の高校生が、専門知識や実践的な英語力を学ぶ「グローバル未来塾 in ひろしま」などを開催しており、皆さんが高校生になった時には、ぜひとも、こうした取組への参加をお願いしたいと思います。

また、来年開催される、広島サミットに参加する主要7か国のリーダーの皆様が、平和記念資料館の訪問や被爆者との対話を通じて、被爆の実態に触れることにより、核兵器が使われることの悲惨さを深く理解し、核兵器廃絶に向けた力強いメッセージを発信されることを強く期待しています。

県としても、広島サミットというチャンスを生かして、平和の取組を世界に広く発信していくほか、若い人が核兵器廃絶への関心を高め、具体的な行動を起こしていくよう、しっかりと取り組んでいきます。

次に、「平和を実現する取組」についてお答えします。

貧困は、紛争の原因の1つであり、また、紛争が、貧困を悪化させ、復興を妨げる大きな要因にもなっています。

広島は、人類最初の原子爆弾による破壊を経験し、その廃墟から復興を成し遂げた地として、「復興への確信と未来への希望」を伝えることのできる場所であることから、

国連訓練調査研究所（ユニタール）広島事務所や、国際協力機構（ジャイカ）中国と協力して、貧困問題を抱えている紛争経験国などで、国づくりのために働いてい

る国や地方政府の公務員などに、広島復興について、研修を行っています。

今年、アフリカの南スーダンやナイジェリア北東部の州知事が、それぞれ紛争の影響を受けた自国の復興のため、研修を受けに広島に来られました。

広島復興について学んだ皆さんからは、「広島の人々が廃墟からあきらめずに立ち上がり、短期間で復興した経験は参考になる」、「広島の経験は希望を与えてくれる」といった意見をいただいています。

県としては、今後とも、広島復興の経験を、世界に伝え、紛争経験国の人々が、希望を持って、豊かで平和な国づくりに取り組んでいけるよう協力していきたいと考えています。

貧困や紛争の問題の解決には、多くの困難があり、たくさんの人の協力が必要です。

皆さんも、引き続き、貧困などの問題について深く学び、困っている世界の人をどうすれば支援できるかについて考え、実践していただき、我々と一緒に、平和な世界を築いていきましょう。

質問2 「観光がすごいことになる広島県」について

2つ目の質問は、「観光がすごいことになる広島県」についてです。

新型コロナウイルス感染症の流行によって、広島県の観光客が減少しています。

令和2年の観光客は、4,207万人と、令和元年の6,719万人から、約37%も減少し、令和3年は、さらに減少しています。

そこで、私たちは、まずは、「観光といえば北海道！」というイメージがあるので、みんなで北海道庁のホームページから観光のサイトを見ました。季節ごとや時間ごとに、おすすめ場所の提案があったり、オンライン予約ができたりと、観光地を存分に楽しめる工夫がされていました。

そこで提案です。コロナが流行する前の観光客を取り戻して、観光客でにぎわう広島県になるために、さらに情報発信に力を入れてはどうでしょうか。

例えば、まずは、私たちには、広島県のホームページのトップページにある、観光サイトがすぐには見つけられなかったのもっと目立つようにしてはどうでしょうか。また、パンフレットやSNSでの情報発信に加え、VRを使って、観光体験などができるようにしてはどうでしょうか。新型コロナウイルスが流行している時のように、実際の旅行が難しい場合でも、バーチャルの体験を通じて、広島の魅力を伝えることができると思います。

2つ目の提案は、「観光地での移動手段」についてです。

今は、一定のエリアにある観光地を回るには、循環バスや電車などがありますが、私たちにとっては、ワクワク感が少ない乗り物です。

そこで提案です。横の壁がない三輪自動車であるトゥクトゥクを活用するなど、移動時間を楽しくする手段が増えるよう、取り組んではどうでしょうか。

トゥクトゥクは、壁がないので開放感が味わえます。また、日常で使う乗り物ではないので、移動するときも思い出になります。

こうした、いろいろな工夫をすることで、今まで以上に、広島県に観光客が来て、北海道に負けなくらい、広島県の「観光がすごいこと」になるといいなと思います。

答弁（商工労働局長）

広島県の観光客は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、大きく減少しておりますが、来年5月のG7広島サミットへの開催準備が進められる中、コロナ前以上に国内外から観光客に訪れていただき、にぎわう広島県になるためには、厳島神社や原爆ドームだけではない、広島県の様々な魅力を多くの人々に届け、知っていただくことが重要と考えています。

提案のありましたバーチャル体験を通じた情報発信については、WEB上で平和記念公園を見学できるデジタル3Dコンテンツや、牡蠣の水揚げを体験できるVR動画の作成、ヨーロッパ、アメリカ、オーストラリアをターゲットにした英語字幕付きの神楽公演のオンライン配信など、実際に広島県を訪れることが難しい状況でも、広島県の魅力を体験いただけるような取組を行っています。

また、観光サイトへの誘導につきましては県公式ホームページのトップページにインパクトのある写真を用いたバナーの配置、県公式インスタグラムやティックトックなどSNSの活用を通じて強化を図っていきます。

現在、観光サイトには、広島に来たら、まず訪れるべきモデルコースをはじめ、例えば、映画好きの人や夜景好きの人などが楽しめるツアー等、様々な観光地を掲載しておりますが、季節や時間ごとにおすすめの場所を分かりやすく掲載するなどの工夫を行っています。

次に、移動時間を楽しくする手段については、例えば、湯来町や三次市などでのEバイクでの移動や鞆の浦でのグリーンスローモビリティを使った散策の他、広島駅から尾道駅間を車窓から美しい瀬戸内海を眺めながら走る観光列車「et SETORA(エトセト

ラ)」、広島港と三原港を島々に立ち寄りながら走る観光型高速クルーザー「SEA SPICA (シースピカ)」など、県内にもワクワク感のある移動手段が増えてきています。

今後も、市町や観光団体など関係機関とも連携しながら、移動時間を楽しめる工夫を行っていきたいと考えています。

広島県としましては、こうした取組を積極的に展開し、日本を代表する観光地として国内外から多くの方が訪れる「観光がすごいことになる広島県」の実現につなげていきます。